

年少者に対する日本語教育に重点を置いた事例

学習科目	内 容	時 間
日本語教育が必要な外国人児童・生徒の現状	・当該地域の現状（年少者問題を中心に）	1
子供に応じた教え方（教授法）と対応の仕方 ※はワークショップ形式	<ul style="list-style-type: none"> ・子供向きの教授法（研究成果から） ・直接法・間接法 ・フォト・ランゲージ等を活用したアクティビティの実践方法 ・対照言語学を応用した教え方 ※子ども出身国の母語の影響で陥りやすい誤用例と対処法・訓練（矯正）法 ※語用論の考え方とその応用 ・平仮名・片仮名・漢字や語彙の学び方、覚え方、指導法など ・適切な教授方法（教科学習に結びつく発話指導や読解指導の在り方） ・異文化理解の促進 ※子どもへの対応の仕方 ・カウンセリングの技法の活用 ※エポケー（判断留保）実習 	2～4
子供用の教材・教具の選択と活用 ※はワークショップ形式	<ul style="list-style-type: none"> ・教材・教具の選択 ・ITの活用（インターネット経由で取り込むことができる教材・素材） ・教材の活用と著作権 ・教材の作成 ※目的別教材の作成法 ※リソース型日本語教材の活用 ※モジュール教材の活用と作成法 ※身の回りのものの教材・副教材化 	1～3
子供の言語習得	<ul style="list-style-type: none"> ・第一言語習得と第二言語習得 ・国語と日本語の違い ・言語習得と人間形成 ・日本語の習得と母語の保持問題 ・習得仮説を活用した指導上の留意点（系統的、体系的指導の在り方） ・会話の習得～教科学習へ 	2～4
教室運営 ※はワークショップ形式	<ul style="list-style-type: none"> ・教室運営の方法 ※ティーム・ティーチング方式 ※マンツーマン方式 ※併用方式 ※多言語環境での適切な指導方法 ※語りかけの仕方 ・クラス編成の留意点 ・コースデザイン ・進路相談と進路選択 ・評価の際の留意点 ※絶対評価や相対評価の方法 	2～4
模擬実習	<ul style="list-style-type: none"> ・発音・発話指導の実習 ・カウンセリング等の模擬実習 ・対応方法の事例の紹介と模擬実習 ・教授法の模擬実習 	4～8

○その他、受講者の希望や必要に応じて科目と内容の調整が可能